

Exposing stealth strategies: non-coding RNAs during oncogenic herpesvirus infection

日時: 2026年1月6日(火曜日)

17:30 ~ 19:00

場所: 医学部第二講堂(研究棟B 2階) + Web

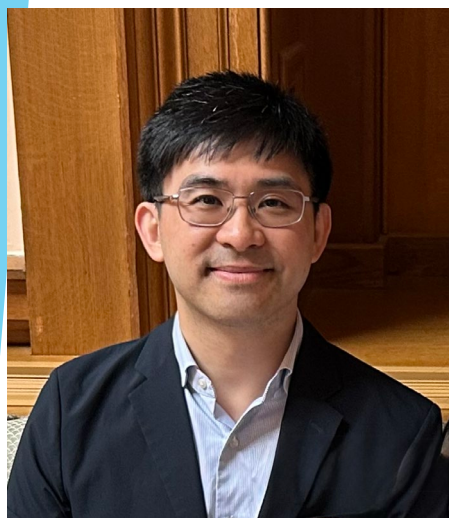
*本講演は、医学研究先端講義(先端医学トピックス)を兼ねております。



Zoom URL: [https://us02web.zoom.us/j/88357378767?](https://us02web.zoom.us/j/88357378767?pwd=lab9wTYU0tQGV5Kee2bcsYg1daLqt0.1)

pwd=lab9wTYU0tQGV5Kee2bcsYg1daLqt0.1

ミーティング ID: 883 5737 8767 パスコード: 011062



田川 嵩展 先生 (Dr. rer. nat.)

Wellcome Trust research fellow,
Institute of Quantitative Biology,
Biochemistry and Biotechnology (IQB3),
School of Biological Sciences, University of Edinburgh

ほとんどの人において3種類以上のヒトヘルペスウイルスが感染している。ヒトヘルペスウイルスは潜伏感染により生涯体内に残留し、主に免疫抑制患者や新生児において様々な病態を引き起こす。例えばエプスタインバーウイルス (EBV) 及びカポジ肉腫ヘルペスウイルス(KSHV)は年間25万件のウイルス性発癌を引き起こす。神経病原性により、サイトメガロウイルスやヘルペスウイルス6は発達傷害や多発性硬化症にも関連する。この潜伏感染の維持、また免疫回避の理解が抗ウイルス療法の発展に必須である。我々は非コードRNAがヘルペスウイルスの感染制御に重要であると仮定してその機能解析を行ってきた。免疫回避能を持つウイルス性タンパク質の存在は知られていたが、それらタンパク質そのものがヒトの獲得性免疫の刺激になってしまうため、そもそも抗原提示されないRNAは宿主を制御するには理想的なウイルス因子となりうるからである。この仮説に適合する例として、EBVの持つmicroRNAが感染細胞をヒトの免疫から保護する機構についての研究、また新規遺伝子制御性RNAであるヒト環状RNA (circular RNA)がKSHVの潜伏感染を制御する機構の解明 (Tagawa et al., PNAS, 2018, 2023) について俯瞰する。また、最近の成果として、複数のヘルペスウイルスにより共通的に発現上昇するヒト環状RNA、またインターフェロン誘導性環状RNAの同定についても報告する (Dremel and Tagawa et al., EMBO press, 2024)。さらに、ヒトのみならずウイルスの持つcircular RNAについての研究についても紹介していく。

担 当: 大学院医学研究科 附属感染症センター 臨床ウイルス学分野
教授 森 康子

主 催: メディカルトランスフォーメーション研究センター(CMX)

連絡先: 研究支援課研究企画係 天羽 (内線5189)

E-mail: k9shien@med.kobe-u.ac.jp